

# 「きのさき見て歩き」を開催しました

実施日 2026年6月5日(金) 9:30~12:00 (天気:曇り)

講師 坂田 文一郎氏 (城崎文化協会会長)

内容 「桃島ノ浦周辺のいまむかし」

## 【桃島池】



城崎庁舎の北側は桃島池をめぐる堤になっていて、いつもとは違う角度で桃島池の畔を歩き、資料の温泉寺縁起図と今の桃島池との違いを講師の解説を聞きながら比較しました。

桃島池は、円山川下流域の大きな入江が変化して池となったもので、山陰線の敷設や污水处理場施設の建設、城崎町役場の移転により池が埋め立てられて元の二分の一ほどの面積になっています。

桃島区の人たちは、池の畔に住み川漁を生業としていましたが、現在は漁をする区民はいなくなりました。

## 【あきつ橋】



あきつ橋について講師の解説を聞きました。

「あきつ」はトンボの古語、「あきつしま (秋津洲)」は日本語の古語でトンボが多く生息する桃島池周辺にちなみ、トンボの橋、あきつ橋と名付けられたであろうとのこと。

満潮になると円山川から海水が流れ込むので、桃島池の真水を保つために橋の下に堰を設けて海水の侵入を防ぐ工夫がされていました。

## 【内島地区（杵が滝）】



内島地区について、朗読と講師の解説を聞きました。

住宅が建ち並ぶ小さな行政区であり、神社仏閣等もないため祭りなどの伝統行事がありません。

地区の北側には城崎町唯一の「杵ヶ滝」と呼ばれる滝があります。見て歩き当日は水が流れていませんでしたが、約10mの高さから流れてくる水はインパクトがあり、風情を感じさせる場所です。

## 【旭地区】

警察署跡地で朗読と講師の解説を聞きました。

以前は地区内に、ごみ処理施設や火葬場、警察署等の公共インフラ施設が多くありました。比較的に新しい町のため、若い世代が多く活気のある地域です。

## 【菊屋島・城崎大橋】



桃島川水門から菊屋島堤防を散策しながら朗読と講師の解説を聞き、古地図にある「桃山」の位置を確認しました。

今は堤外地となっている菊屋島はかつて耕作主が苦労を重ね稲作耕作地に農地化し、灌漑対策の工夫などを行い豊かな田んぼを作り上げました。古地図を見ながら菊屋島堤防が作られる前の菊屋島の様子を想像しました。堤防の建設と同時に、桃島、内島、旭町地区の内水処理のために桃島排水処理施設が建設されたことも解説されました。

新城崎大橋が架設されたことで、交通の利便のほかに円山川下流に2000mのボートコースを作ることが可能になり、近い将来、国際クラスのボート競技の大会を開催することが可能となることなどの説明がありました。

## 【桃島神社参道（菊屋島離農の碑）】



菊屋島離農の碑を見学し、講師の解説を聞きました。

昭和41年、毎年のように繰り返される円山川の洪水を防ぐために、当時の建設省は全長900mの大堤防を築くことを決めました。そのため、菊屋島耕地は堤外地の河川敷になることが明らかとなり村人は先祖代々の田地を失いました。菊屋島離農の碑とは、その当時の村の人々の思いを記した石碑です。

昔話「恵比寿になった浜左衛門」を朗読しました。

昔話を読むことで、昔の生活の変化などを知る手立てになることを教えていただきました。

城崎庁舎へ戻り12時頃解散しました。